

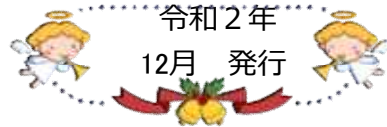
ぶん しょ かん つう しん 文書館通信

東御市文書館

6号

令和2年

12月 発行



☎ 文書館直通 0268-67-3312

東御市教育委員会文化財係直通 0268-75-2717

📧 メールアドレス bunshokan@city.tomi.nagano.jp

今回は、江戸時代の学校に関する史料をご紹介しましたが、今回は明治時代以降の史料をご紹介いたします。

(参考) 文部科学省HPで公開されている、文部科学省学制百年史委員会【学制百年史】

明治4年(1871)：文部省(現文部科学省)ができ、学校を日本全国に作る準備が本格的に始まります。

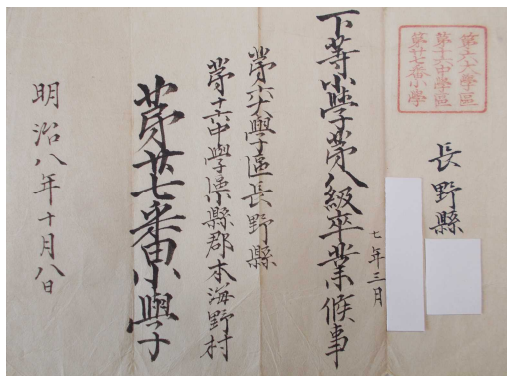
明治5年(1872)8月：【^{がくせい こうふ}学制公布】

フランスの方式をまねて、全国を小・中・大に区画し、それぞれに小学校・中学校・大学校を配置しようとしたのですが、中学校と大学校の配置は思うように進みませんでした。

当学 初区 予制 定の	小学区：全国を53,760に分けて小学校を各1校設ける。
	中学区：210小学区 = 1中学区とし、256に分け、各1校の中学校を設ける。
	大学区：32中学区 = 1大学区とし、8に分け、各1校の大学校を設ける。

明治12年(1879)9月：【学制廃止・教育令公布】学区制の無いアメリカの方式をまねて、全国多数あった学校を整理して画一的な教育を改め、教育行政の一部を地域に任せました。

◆下の写真はフランス式期とアメリカ式期の卒業証書です。

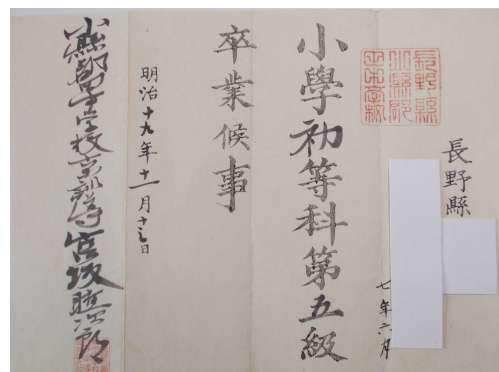


藤田家文書 整理中 明治8年(1875)

【第六学区長野県第十六中学区小縣郡本海野村第二十七番小学】と書いてありますが、これが**学制公布**時に学校を配置するために全国を区切った番号です。

明治8～9年には全国で**小学校が2万6千校設置**されたと言われ一気に学校が増えました。しかし、その建設費や維持費は学校管内の住民への賦課金(ふかきん)で賄われており地域への負担が大きかったのです。

※賦課金：租税などを割り当てて負担させること。



藤田家文書 整理中 明治19年(1886)

学制が廃止され、**教育令が公布**されてからは【小縣郡田中学校】と学校名に地域の名称が付いています。

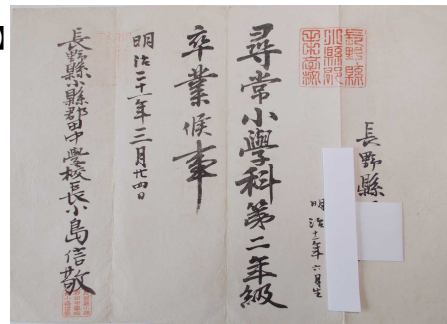
学区制を廃止し、府県に学校の運営を任せ、^{かんとかきよくがつくとりしまり}監督局学区取締による統括を改めて【学務委員】を町村住民によって決定し、地域の実情にあった教育を目指しました。これは今の【教育委員会制度】に似ています。これまで上等・下等各4年の8年間を全ての者が入学でしたが、教育令になってからは小学校就学期間に最低時間を設け、柔軟性を持たせたことで、中には小学校を廃止する府県も出てきました。

明治13年(1880)12月：【改正教育令】文部省の行政力を強め、中央統括の方策にしました。

◆ただ中央統括にしたのではなく、地方の教育実情を視察し、住民感情に合った方策としました。

明治19年（1886）3～4月：【教育令廃止・学校令公布】

小学校・中学校・大学・師範学校の4つの学校にそれぞれ独立した制度を学校令として出しました。
 小学校を【尋常小学校】と【高等小学校】に分けて、尋常小学校の4年間を義務教育としました。
 中学校と師範学校も同様に、尋常と高等の二つの段階に分けました。



藤田家文書 整理中 明治21年（1888）

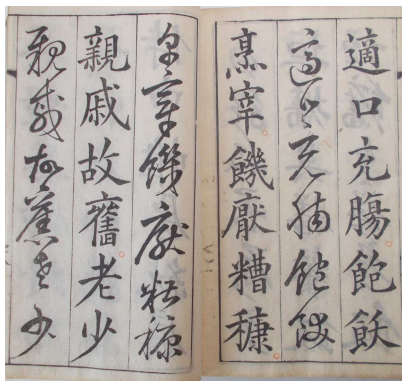
★現代の義務教育の基礎ができ、戦争をはさみながら大正・昭和へと引き継がれていきました。

□ここで文書館で所蔵する明治～昭和時代の教科書の一部をご紹介します。

『真草千字文』

『高等小学校読本』

『高等小学算術書』



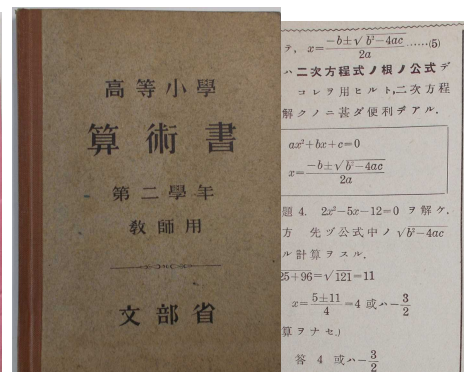
藤田家文書 整理中 明治10年（1877）

書き方のお手本です。江戸時代のもので似ていますが、版木物と言われる印刷で、寺子屋時代のような地元の実用的な地名などはありません。



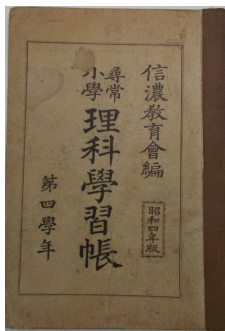
藤田家文書 整理中 明治21年（1888）

文部省が編さんした、高等小学校の教科書です。検定教科書から、国定教科書に変わっていきました。

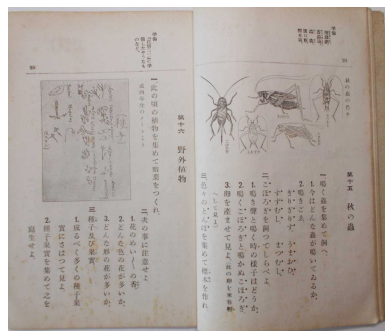


藤田家文書 整理中 昭和13年（1938）

文部省が編さんした教師用の授業テキストです。教師たちのテキストを文部省が作成し、共通の授業内容になりました。



藤田家文書 整理中 昭和4年（1929）



『尋常小學校 理科学習帳』信濃教育会編
 長野県の学校の先生たちの有志で作られた『信濃教育会』が発行した尋常小学校の理科の教科書です。大正10年（1921）に初版本が発行され、写真は第4版目のものです。
 理科の知識を教え込むのではなく、実物を触ったり観察して、感じたり気づいたりすることを大切にする内容になっています。



【文書館展示ご案内コーナー】

大数珠(おおじゆず) 数珠を輪にして大勢が周りに正座し、念仏を唱えながら横へ数珠を送り日に感謝し無病息災などを祈願します。

現在【有津倉のお念仏】【加沢の念仏講】が東御市の無形民俗文化財に指定されています。



民俗資料目録No.343 大塚仁氏より寄贈(右下定規は30cm)

《資料展示室》 市内から出土した土器や石器を常設展示しています。近年の発掘調査で出土した遺物も随時展示替えしておりますので、ご覧ください。



しもだいら とうみし かのう
 下平遺跡 (東御市和) より出土

ぼくしよどき
 墨書土器
 土師器(はじき)という古代の土器の表面に墨で【窺】(うかがう)の文字が書かれています。